農業振興座談会

二千数百町歩の耕地を擁するわが新津市にとって有効適切なる農業施策の推進は唯に農民の生活を豊かにするのみでなく新鮮にして安価な食糧を市民に供給し且つ市街地商工業者に対する購買力の増進に大きな関係をもつので農村指導先覚者の皆さんから農村振興についての御高見を拝聴し一つは今後の市の農業施策の参考とし一つは一般農民各位の御注意を喚起するため今回の農業振興座談会を開催した次第であります。

【市長挨拶】

生産技術とともに 經營教育が肝心

農事予算の防衛費シワ寄せは痛恨事

出席者（順不同敬称略）

- 農業（七日町）帆苅正吉
- 〃（満願寺）鈴木元系
- 〃（舘）細川忠雄
- 〃（古田）高橋かず子
- 〃（川口）石崎ツネ
- 新津市農業委員会長　横山源吾
- 新津市農業共済組合長・荻川農業協同組合長　石崎文吾
- 新津市議会議員・新津市農業委員　杵鞭源三郎
- 新津土地改良区　稲垣稲作
- 新津農業協同組合参事　阿部六兵衛
- 改良普及員　斎藤博治
- 同　余湖正彦

市側

- 市長　窪田繁雄
- 助役　長谷川多喜男
- 農務課長　豊岡憲夫

五大事業の五カ年計画

〈長谷川助役〉ではまず農務課長から一つ。

〈課長〉日本農業は保護政策がとられてきたといわれているが、終戦前後を通じて供米という大きな義務が負わされ、国としてもこの農家に対する要請に対応していろいろ農業振興の方途を考えてきましたが、しかし昨今はようやく昔日の自由経済時代に入らんとしており農業も政府の保護のみに依頼して安閑に過せぬようになっております。即ち立法措置としては農地法、土地改良法、主要作物種子法、植物防疫法、耕土培養法、農業災害補償法などがあり、機関としては農業委員会、土地改良区、農業協同組合、農業共済組合などがそれぞれ定められた法律によって、国の委託事業をはじめ市自体の仕事をやっているが、実際の裏付となるべき予算措置が極めて不充分となりつつあるわけであります。

こうした中に市としては特に当市自体に適合した次の五大事業を重点として五ヵ年計画の下に鋭意努力しております。

一、採種圃、試験田、展示圃の強化拡充。これは何と云っても優良種子をつくり種子の更新によって増収を図ろうとするものであります。

二、水田裏作の普及指導土地を効率的に活用して生産及び農家収入を高めようとするものであります。

三、畜類の導入増殖。単作農業の弱点を補うために、畜産をとり入れた多角経営化を図るのであるが、中家畜から逐次大家畜導入へ進めたいと考えております。

四、蔬菜、果樹園芸の改良強化。現在他町村から非常に多く入ってきているこれらのものを自給自足の状態にもってゆこうとするのであります。

五、農業教育の徹底。農民教育の重要性はいうまでもないことで、成人教育として毎月の定期講座青少年教育として加茂伝習農場、試験場への委託生を市費でおくっており生活改善についても指導を行っております。

自主的計画性の不足

小規模土改にも補助を

〈稲垣〉農家が希望しても国や市がとりあげてくれねば実現しないと同時に逆の場合もある。たとえば、土地改良によって裏作が立派にできる条件がつくられても、農家が仲々これをやらない、これは技術指導と啓蒙で効果の上るよう市で努力すべきだ。又大規模土地改良事業には補助があるが小規模のものにそれがないため農家は困る。いろいろの団体があるが、その横の連絡が不充分なためどこかに盲点ができている、これを発見して対策をたてる必要がありますね。

〈細川〉農業の改良には多額の経費のかかるのが一番いたい。国の農業予算も防衛予算のために減らされて痛恨事だ。しかし農民も私始め自ら進んで自主的に計画的に研究する努力がまだ足りないと思う。水田裏作なども決してこれによって表作が減収はしません。要は研究です。自主性を高めるよう懇切な指導をねがいます。

〈阿部〉計画性の大切な例として、自動耕耘機など、さかんに奨励されるまま無計画に借金して農家は買っている。経済事情の悪化した今日、そのため機械屋にくわれてフトコロ具合をますます悪くしている実情ですね。

〈課長〉御尤もです。行政面で奨励しても、裏付がマッチしていない現状だから、自分のフトコロを考えてやる自主性と計画性が必要で、市ではパンフレットを配ったりしてこの面の自覚を促しています。

〈帆苅〉農民に自主性のないことは、長い間の伝統にしばられているからだ、封建性から自らを解放するよう指導することが第一と思う。又指導上の問題として、農民一人一人を対象としては容易でない。せっかく農家組合ができているのだから、これを単に国や市の下達機関にしておかず、もっと生産活動の主体として指導すべきですね。

〈高橋〉婦人の立場から農産加工、例えばカンヅメ工場などつくれば、家畜や野菜の普及改良が促進され、これを婦人の労力でやるようにしたいものだと思います。

質よく、高く売れるもの

適性品種の統一を

〈斎藤〉採種圃も近年非常によい種子がとれるようになり、富山県あたりへの依存度もうすらいできたことは確かです。今後はもっと適合品種を少くして統一することが必要と思っています。

〈阿部〉ずらりと品種名を印刷して、農家が選択するものをそのまま与えておられるようですが、これからは米の銘柄がものを云う時代になるのだから、整理して指導してもらいたいものですね。

〈細川〉農家があれこれと試作してる段階で、いづれは農家自体の選択によって整理されてくると思いますが。

〈石崎(文)〉今まではただ多くとれる品種のみを作ってきたが、これからの市場に対応するには、多くとれることだけでなく、質よく、高く売れるものを選ばねばならないでしょうね。

裏作発展は指導如何

労力や工事経費も隘路

〈斎藤〉この地方は秋に雨が多く、作業のやりくりがうまくゆかないし、米作一本でゆこうとするから耕作反別を増すことばかり考え、ますます労働力が足りなくなって、裏作まで手が出せないという傾向があるのですね一毛作技術と二毛作技術を混同している点もあるし、土地改良によって乾田化したのだから、もっと強力な指導を行えば裏作は必らず大きな発展をすると思います。

〈余湖〉市の地域でも、市ノ瀬、覚路津方面は未だに裏作ができない条件にあるから、土地改良、水利の整備をする必要があると考えるのですが、どうなっているのでしょう。

〈横山〉あの地域は昔から湿田地帯で、よく作が流された。そのため裏作などということは念頭になかったわけです。最近市ノ瀬部落などでも、青年諸君の研究会あたりから、排水溝をもっと拡げてもらいたいとか暗渠排水を要望する声が生れてきていますが、何分にも工事の経費の点が隘路になっている。それでも、今年あたり、青年達の熱意から一本だけ排水溝の拡張工事をやってみようという空気になっております。

〈細川〉裏作を減収させないための裏作奨励でなければならない、分けつした良い苗と、品種の選定並びに植え方等により減収しないことは私の体験でもはっきりしているから指導のあり方を考えてほしい。

〈帆苅〉裏作は将来、飼料作物にしなければならないのではないかと思う麦作などでは、苗植えの忙がしい時期に裏作の刈取りが、ぶつかるために、労力の点でとかくやりにくいから仲々普及しにくい。

中堅抽出でなく「みんなを教育」

〈石崎(文)〉経営安定の面から、個人を対象とした農業教育方法の外に、農家組合などの団体をも対象にした教育方法をとって頂きたい。それからの生産技術面と共に経営面の教育にもっと力を入れてもらいたい。米代金が入っても既に借金と相殺すればゼロになっている現状です。借金のない農家をつくらねばだめです。農家のフトコロが寒くては市の発展も業者の発展もないと考えますが助役さんいかがですか。

〈助役〉当市は農村行政の発展なくして商工行政の発展もないということにつきましては、私も同感です。

〈細川〉現在市の行っている農民教育は、いわば中堅抽出教育だと思う。講座に出席する農家は一部少数者に限られているのが実情ではないかと思います。こういう方法だけでは実際上教育をうける農家が限定されますから、部落懇談会のような形でみんなが集るような方法をとってもらいたい。理想をいうなら、農作業の性質に応じて一つの作業に入る直前の時期をとらえて、それに関する教育をするというところまで努力して下さい。

経済と行政面の教育も

〈斎藤〉部落へ出向いて懇談したいと私共が計画しても水準以下の農家がとかく集ってこられないこの層の人から集まって頂くことが肝心なので苦心しています。指導する立場から申しますと、仲々思うように部落の方で集会の機会をつくって下さらない。私共は日曜でも夜でも来いと云われれば喜んで行きますが。

〈石崎(ツネ)〉生活改善と申しますか、婚姻などの費用節減は何とかして実現するよう啓蒙運動をして頂けないものでしょうか。二町歩以上の農家ならともかく、みんな無理をしていると思います服装なども一様にぜいたくで簡素なものにしたいものです。

〈石崎(文)〉固定資産税が上って農家の負担はますます重い。農業予算の面で充分農村へ還元してもらわねば、農村が片つぶしになる。そうした経済面、行政面の教育も充分にお願いしたい。「農業教育さかんにして農家ますます窮乏」では困りますからね。

〈鈴木〉商農一体論は同感で、そうあらねばならないと思います。農業が所得をあげるためには高率な経費を投下していることを考えていただきたい。税金はまあよいとして、予算の点で農道、橋梁の修理などもっと力を入れて貰いたいものです。

〈細川〉農業予算が商工業者からおされて、つぶれそうだということですが――。

〈助役〉そういうことはありません。

農道の橋は永久橋に

〈稲垣〉農道の橋梁は今のように木橋だと二年位でかけ替えしている。市道の部分だけでも市から半額補助位で永久的なものにする方が結局経済的だと思う。

〈阿部〉生活改善は婦人方の集りでは、きまって話題になるが、小さいところで運動しても実現はむづかしい。全国的な動きにしなければだめです

〈助役〉ではこの辺で長時間ありがとうございました。

家畜飼育のモデル農家

〈余湖〉家畜の導入は山間部と違って、裏作の実施と併行してやらねば経済効果もうすいし、促進もしない。水稲の展示圃のように、モデルとして家畜飼育の展示農家ともいうようなものを作ったらよいと思う。

〈細川〉二町歩以上の農家は労力でも経済力でも比較的ゆとりがあるが、一町から一町五反位の農家が、実際にやれるような畜産のとり入れ方を指導してもらいたい。

〈余湖〉一部の農家にだけしかやれないような方法でなく、一般レベルの農家を選んでモデルとすることが大切ですね。

〈帆苅〉現段階では、大家畜をとり入れることは、すべての農家がやれることではありませんね。私共は、余った労力、特に婦人の手で養鶏をやり、毎日少しづつでも現金の入るようにしています。しかもこれを共同購入、共同研究でやっているし卵の値段の安くなることなども見越して飼料の自給に努めています私達はこれをいも養鶏といっております。

蔬菜の計画栽培を

椎茸は婦人の力で充分

〈阿部〉柄目木でやっていたビニール温床をやめたのはどういうわけですか、失敗をのりこえて大いに努力して頂きたい。温床栽培で少しでも早く収穫して市場へ売りに出すことが農家経済上有利なわけですから。

〈斎藤〉土地改良によって乾田化されているのですから、研究すれば必ずもっと稲作技術を能率的にできるのですから、そこから婦人の労力を生み出して、これを蔬菜改良にふり向けてゆくことが必要ですね。

〈高橋〉大体蔬菜は婦人が主になってやっているのではないかと思いますが、婦人は一般に研究心が非常に不足しているのではないでしょうか。私も試験場へ出かけて行ってみて一寸したことを聞いても、大へん役に立ってよい成果が得られるようでございます。自己流に昔からのやり方を反省してもみないということではいけないと思っております。

〈稲垣〉高橋さん、さきのカンヅメ工場のお話ですが、何を材料に考えておられますか

〈高橋〉私、廃鶏にしろ、豚にしろ、処分するときに、これを高く買い取るところがあって工場の煙突から煙の出るのをみておれば自然と家畜や蔬菜や果樹などの生産が発展するのではないかと考えるわけでございます。そうしたものを材料とするカンヅメ工場ですね。

〈稲垣〉群馬でみてきたのですが、ナメコのカンヅメで大きな利益をあげているところがあります。手でやる小規模のものから、モーターでやる大規模のものもありますが、ナメコのとれる現地へ工場が機械をもっていってやっていますよ。椎茸も有望ですね、これは如何に原木を安く手に入れるかが、利益に大きくひびきます津川あたりで七十円位したのでも、農林省などで斡旋するのはその半値でしたからね、椎茸栽培は婦人で充分やれますし。

〈高橋〉同感でございます。椎茸は山から取るわけではございませんが、やはり茸と云えば山が連想されますから、秋葉山開発と結びつけて新津の特産として普及したいものですね。

〈帆苅〉私共青年の研究会では市の指定をうけて蔬菜の改良を行っていますが、新津は畑地が少いと云っても新潟市と比べてみてもそんなに少いことを悲観していることはないので有望であると信じています。また生産過剰なども、品種を統一して共同販売をするとかすれば決して心配はないと思います。新潟市郊外でできるものでも、新潟市内へよりも北海道方面へ出荷されている、品種の改良、選択の如何によって、僅かな土地でも二回も三回も収穫できます。新津では今頃の畑をみて青味がかっている作物と云えば麦くらいなものですが、新潟あたりではみんなもう蔬菜が青々と畑をおうているんですね。

〈斎藤〉生活改善の一つとして食生活を豊かにしかも経済的に改善する意味からも蔬菜の計画的栽培を考えることは大切なことだと思います。

〈帆苅〉蔬菜は何と云っても消毒が必要ですね。昨年は市から購入してもらった散粉器で消毒をやりましたが、とてもよい効果がありました。おもしろいのは、このために附近一帯の田にいなごが殆んどいなくなって、稲作にも非常によい結果となったことです。

〈高橋〉八珍柿が二十年前頃ですか、当時町の勧業課が力を入れて下さって、今では市内に相当普及しておりますし、加工にも適するように研究されてきております。原木があって県外からも見に来る人もある程なのですから、これなども市でうんと力を入れて特産にしてもらいたいと思います。

〈阿部〉長野県の塩谷村を視察して感心したのですが、その村では農協へねぎを貯蔵しておいて、東京の相場を毎日みていて、高値だと思うときに間髪を入れず、どっと出荷するというやり方をとっておりますね。

交換分合登記は年内に

急ぐ個人交換は一件毎に

農地の交換分合計画による登記事務がおくれているが、年内には大体終らせたい予定である。なお、その後部落全体の交換分合計画でなく、個人交換したものを農家組合長からとりまとめて申告していただいた分については、登記がさらにおくれる見込みなので、申告してある個人交換のものでとくにいそぐものは、一件毎に知事の許可をうけ、個人で登記をかけていただく方法をとることにしたいから、希望者は申出ていただきたい。

【農業委員会】